公益社団法人霧島青年会議所　２０１９年度　第一回理事会　議事録

開 催 日：平成３１年１月２９日（火）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２３時００分

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　木野田　幸平　　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　盛田　啓仁　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　重野　隆太　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　板元　幸仁　　君
6. ２０１９年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. 理事長挨拶

理事長　藏元　国明君

　皆さん、こんばんは。１月のお忙しい中にも関わらず、ご出席いただきましてありがとうございます。２０１９年度が始まりました。新春懇談会から京都会議、１月総会まで、出方が多い時期にも関わらず、皆さまには多くのご出席をいただき、ありがとうございました。始まって１か月が過ぎようとしています。皆さん、理事役員として、自覚を持って行動できていますでしょうか。私も毎日、自分が率先垂範して動けたかを考えながら日々を過ごしています。話は変わりますが、人は同じ２４時間という時間を割り振られている中で、皆さんの場合にはその中にＪＣ活動があるわけですけれど、どうしても時間に追われる形で日々を過ごしてしまいがちです。統計的に見て、人間という生き物は怠けやすいという傾向があるようです。私自身、怠け癖はありますが、時間に追われることなく時間を追って生活をしていけたらと考えております。甘えがでることもありますが、時間の使い方を考えながら、日々の行動を考えていけたらと考えております。そして、本日いよいよ審議案件があります。１月の段階で審議があることはほとんどありませんが、先ほどお話をしましたように、時間を追って早め早めに本年度は動いていけたらと思います。スケジュール等、厳しいこともあるかもしれませんが、副理事長さんが委員長さんを導いて、議案などに取り組んでいただけたらと思います。本日は仮会員が４名、今回あがっていない方もまだ３名いらっしゃいます。２か月で１０名くらい拡大ができたら勢いもつくと思いますので、委員長さんだけでなく理事役員全員が一丸となって取り組んでいっていただけたらと思います。

1. 直前理事長挨拶

直前理事長　前田　数馬君

欠席のため割愛

1. 顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

遅刻のため割愛

１０． 議長選出

審議事項：理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：専務理事　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：南郷財政局長

　　　議事録署名人：田上副理事長、盛田委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | 〇 | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | × |

　　理事１０名中９名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | × | 竹下圭一郎 | × | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |
| 東井上陽平 | 〇 |  |  |  |  |  |  |

　　役員５名中、３名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

審議事項５件　　協議事項４件　　連絡・報告事項４件　となっております。

１４．議事録承認の件

木野田　：確認させて頂き問題ないことを報告させて頂きます。

板元　　：確認し、不備なきことをご報告させて頂きます。

１５．議題

審議事項１：仮会員承認について（別府　拓慎君）の件

藏元　　：仮会員承認について、こちらは４名とも付帯しますので、一緒に進めさせていただきます。別府君、菅君、若宮君、濱田君について、木野田副理事長、お願いいたします。

木野田　：詳しくは委員長より説明させていただきます。

板元　　：４名とも私の方でもお会いさせていただき、入会の意思を確認いたしました。入会申込書についても全員からいただき、確認していただけるよう原本を回覧させていただいております。ご意見等ありましたら、よろしくお願い致します。

藏元　　：それでは、ご意見・ご質問等ありましたら挙手にてお願い致します。それでは、面接をしていただいた方に今回の仮会員の人物などをご説明していただけたらと思います。別府君については、重野委員長。

重野　　：別府君については、上小川にある三州安全ガラスというガラスを交換・販売する会社を営んでおります。お父様がもともと都城の方で、こちらに移り住んで苦労をしたということもあったそうで、息子にはこのような会にどんどん参加して人脈を広めていってほしいと言われておりました。そして本人も、このようなきっかけを基に自己成長したいと考えている好青年であります。

藏元　　：ありがとうございます。それでは、菅君については木野田副理事長、お願い致します。

木野田　：菅君については、皆さんもご存知かと思いますが、５年前に仮会員として１度入会されました。色々とありまして退会されましたが、また改めて復帰をしていただけないかと前々からお話をしていたところ、そのような考えはご本人も前からあったみたいで、今回改めて入会していただけることになりました。人脈も広いため、今後の拡大のキーマンになっていただけるものと考えております。

藏元　　：ありがとうございます。それでは若宮君については、盛田委員長、お願い致します。

盛田　　：若宮君については、丸山商会という会社の息子さんです。お父さんが言うには、若宮君はなかなか外に出たがらない性格で、このような場に誘ってほしいというお父さんの考えもあり、本人もこのような機会が今までなかなかなかったということで、勉強したいという前向きなご意見をいただいております。

藏元　　：ありがとうございます。それでは、濱田君については板元委員長、お願い致します。

板元　　：濱田くんについては、私が保育園の時からの幼馴染で、同級生でございます。去年の未来教室から参加をしていただきまして、その中で色々とお話はしていたのですけれど、菅さんとも一緒に色々と仕事をしているそうで、菅さんと一緒に活動できるならと今回了承をいただいたところです。

藏元　　：ありがとうございます。この４件について、ご意見、ご質問等はございませんか。

鈴吉　　：仮会員承認通知の最初の季語が「梅雨の候」になっているのですが、これは間違いだと思いますので修正をお願い致します。

前田（大）：別府君だけだと思います。

板元　　：申し訳ございません。別府君の承認通知書について季語が間違っておりましたので、修正させていただきたいと思います。

藏元　　：どのように。

板元　　：他のメンバーと同様に、「梅雨の候」を「新春の候」と修正いたします。

藏元　　：それでは、別府君の入会申込書の季語を「新春」に修正いたします。他にございませんか。

板元　　：追加で、別府君の請求書についても季語が間違っていたため、「梅雨の候」を「新春の候」に修正させていただきたいと思います。

藏元　　：請求書についても、「梅雨の候」を「新春の候」に修正させていただきます。

常盤　　：確認ですが、正副で一度あがったものが理事会にも出てくるのでしょうか。もう一点、季語の後に「時下ますます」とするとおかしくなると思うのですが、いかがでしょうか。

前田（大）：通例通りのものを使用しているという点と、形式上「時下ますます」と入れる場合があるというので今回使用しております。見方によってはおかしくも見えますが、このように使う場合もあるということで、今回はこのままとさせていただき、次回からしっかりとさせていただきたいと思います。また、議案に関しては、原則としては正副を通したものを理事会であげさせていただきたいという見解でございます。

常盤　　：例年、期間というものを考えて、正副を通してなくても入れようという方向で進めていましたが、フォーマット的なものをしっかりと作って、案内文やスケジュールをきちんと正副メンバーに執行部から確認していただければ、それでもいいのかなとは思います。

前田（大）：拡大と執行部と連携いたしまして、フォーマットについては早急に作成し監事にもお目通しいただき、正副についても配信などで進めていく形を取らせていただきたいと思います。

藏元　　：他にご意見、ご質問等ございませんか。

井上　　：３ＬＯＭ等、他の地区の例会等もスケジュールに含めてもよいのではと思うのですがいかがでしょうか。

藏元　　：その件については、公式的に連絡が来ていない状態ですので、連絡があった際には改めて拡大とも連携をとって進めていきたいと思います。他にご意見、ご質問等ございませんか。なきようでしたら、審議に諮りたいと思います。審議については個別に諮りたいと思います。別府拓慎君については、先ほど修正がございました。通知書と請求書の季語を「梅雨」から「新春」に修正の上で、審議に諮ります。

審議：全会一致で審議可決

審議事項２：仮会員承認について（菅　倫太郎君）の件

藏元　　：審議

審議：全会一致で審議可決

審議事項３：仮会員承認について（若宮　翔吾君）の件

藏元　　：審議

審議：全会一致で審議可決

審議事項４：仮会員承認について（濱田　龍幸君）の件

藏元　　：審議

審議：全会一致で審議可決

審議事項５：２０１９年度　３月例会計画書並びに予算書（案）の件

木野田　：３月例会の議案につきまして、３回目となっております。詳細につきましては、委員長より述べさせていただきます。

板元　　：全会の理事会、臨時正副の意見を基に、修正をさせていただいております。お目通しいただき、ご意見等ありましたらよろしくお願い致します。

藏元　　：審議案件ですので、財政からコメントをお願い致します。

南郷　　：事前に指摘をさせていただいた点につきましてはきちんと修正をしていただいており、予算書の根拠となる資料を添付していただいておりますので、問題ないと考えます。

藏元　　：その他、ご意見・ご質問等ございませんか。

重野　　：スケジュールについて、今年は例年よりも早い審議ということで準備期間を多くあるのですが、リハーサルについては委員会単位でしょうか、それとも我々も参加させていただけるのでしょうか。

板元　　：現段階では、当委員会単独で考えておりましたが、もし合同で行うことができるのであれば共にリハーサルを行うことができればと思います。

重野　　：ありがとうございます。

藏元　　：他にご意見・ご質問等ございませんか。

鈴吉　　：１月総会の際にアンケートについて顧問からダメ出しがあったのですが、３月例会のアンケートはこの形でよろしいでしょうか。

前田（大）：その件についてはまだ報告書は出ておりませんし、３月例会についても２度理事会を通ってきていますので、このまま審議資料という形で扱っていきたいと思います。変更はなしということでよろしいですよね。

板元　　：はい。

前田（大）：鈴吉副理事長、よろしいでしょうか。

鈴吉　　：はい。

常盤　　：今は委員会ごとに座る等の設えをしていると思いますけれど、仮会員が３名いらっしゃいますので、仮会員のアテンド等のフォローを横のつながりで気を付けてやっていただけたらと思います。

板元　　：仮会員にも配慮をして、他の委員会とも協力をしながら進めていきたいと思います。

藏元　　：審議に諮りたいと思います。

審議：全会一致で審議可決

協議事項：２０１９年度　４月例会計画書並びに予算書（案）について

田上　　：２回目の協議となっております。大きく変わった点は、前回は対外も対象にしておりましたが、例会ということで対内のみということで内容を変更しております。詳細については、委員長より述べさせていただきます。

盛田　　：田上副理事長からもありましたが、大きな変更点としては対外対象者を削除したという点です。その他いただいたご意見に関しましては、対応をさせていただいております。よろしくお願い致します。

前田（大）：背景の変更点を中心に、ご意見・ご質問をよろしくお願い致します。

南郷　　：予算書について、様式１４の見積企業一覧表に金額の記載がないので、金額の記載をお願い致します。

盛田　　：修正させていただきます。

南郷　　：今回例会の中でメインプログラムをされると思うのですが、メインプログラムの中では費用は発生しない形となりますか。

盛田　　：メインプログラムの中では、予算は発生しない設えで考えております。

重野　　：参加促進について、仮会員も入ってきますので、仮会員のための促進方法も入れておいたほうが良いのではと思います。

盛田　　：仮会員に対しても配慮をした参加促進を致します。

板元　　：対外参加者を抜くということですので、参考資料の中の４月例会のチラシ等はいらないとういことですよね。アンケートも２つ入っているような形ですので、資料を精査していただけたらと思います。

盛田　　：いらない資料は削除のうえ、資料を精査させていただきたいと思います。

東井上　：例会の背景は各例会で変わってくることになりますか。背景には青字で「まちづくりへの参画意識の向上」と書いてあって、目的に「夢を描けるまちへと導いていける組織となる」と書かれてありますが、背景と目的が逆のように見えます。

盛田　　：確かに言われるように、背景と目的が串刺しになっていないように見えるので、文章を精査させていただきたいと思います。

東井上　：背景と目的をひっくり返すだけでもいいようにも思えますが、そこは理事長の考えと合っているのかを考えた上で対応していただけたらと思います。

鈴吉　　：メインプログラムの資料を見させていただいたのですが、パワーポイントが６０枚近くあって、これはどのような形で見せる予定なのでしょうか。

盛田　　：時間的にも全部を説明するのは難しいかと思いますし、対外対象者がいなくなったということもありますので、もう一度伝わりやすい方法を考えたいと思います。

鈴吉　　：委員長が説明して見せていくのであれば、資料として皆さんに渡した方が速いのかなと思いました。先ほどメインプログラムの中で予算が発生しないのですかとう質問がありましたが、そういう意味も含まれているのではと思いますので、再考してみていただいてもよいのではないかと思います。

盛田　　：グループディスカッションに絡めて進めていくということで、資料をどのように使用するのかをきちんと考えておりませんでしたので、再考させていただきたいと思います。

井上　　：この例会を通じて、まちづくり事業に会員の意識を向けていきたいという考えがあるのではと思うのですが、今回メインプログラムで行うグループディスカッションの中で落としどころはどのような点を考えておられるのでしょうか。また、グループディスカッションの中で意見がなかなか出てこないような場合の工夫は何か考えてらっしゃるのでしょうか。

盛田　　：活発な意見交換ができるような設えといたしまして、各グループに委員会メンバーを配置したいと思います。落としどころといたしましては、活発な意見交換をと最初は考えておりましたが、対内向けに変更したことにより出てくる意見もまた変わってくると思いますので、その点は改めてしっかりと考えてみたいと思います。

井上　　：落としどころはグループディスカッションをする上で一番大事だと思います。どこに持っていくかを決めておいた方が、ただ意見交換をして終わってしまうともったいないですので、事業につなげる落としどころを決めておいていただけたらよいのではないかと思います。

木野田　：メインプログラムを計画書の中に書いていただけると、具体的にどのようなことをするのかが分かりやすいのではないかと思います。また、井上監事も言われましたが、この例会の裏目的というものがあると思いますので、その点を委員会メンバーとも話し合いをして、事業に活かせるような設えにしていただけたらと思います。

盛田　　：メインプログラムについては、計画書の中に記載をさせていただきたいと思います。例会の設えについても、きちんと考えていきたいと思います。

前田（大）：質問になるのですが、この計画書を作成していく上で、これまでの例会の報告書を見たりしましたか。

盛田　　：今までの例会の事業計画書は見させていただきました。

前田（大）：何の例会を参考にされましたか。

盛田　　：今年の板元委員長の３月例会や、去年の例会の議案は一通り見たつもりです。

前田（大）：過去の資料を見ていくのはとても大事だと思います。ただ、執行役員が言った質問でもあったのですが、参画という言葉は内部向けの言葉ではないと思います。ＪＣの事業は、調査して立案して実施して検証していきます。参画意識を向上していくのは内部ではないのです。盛田委員長の事業計画書の中で参画意識を高めていかなければならないのは市民になると思います。その点でズレが出ているので、参考資料が定まらない等のブレが出ているのではないかと思います。類似ではないですが、過去のまちの計画書等が参考になると思いますので、そのような過去の資料をまた見ていただき、背景と目的をもう一度考えていただけたらと思います。

盛田　　：参画という言葉の意味するところをもう一度確認し、今いただいたご意見を参考に再度背景と目的を考えていきたいと思います。

常盤　　：例会の対象者が対内に落ち着いたと思うのですが、自分たちだけでしたら何時までに終わらないといういけないということもないと思いますので、会場選定も含めて、時間も足りないというのであればもっと時間を取ってみてもよいと思いますので、せっかく皆さんが集まる機会ですので有意義に使用していただけたらと思います。

盛田　　：皆さんに集まっていただくからには、効果的な設えをすることができればと考えておりますので、今一度考えてみたいと思います。

藏元　　：ＪＣは政策集団であるという点、また委員長自身が書いている「仕組みづくりが必要です」という点から考えれば、やはりそこの意識を会員が持たないといけないと思います。意識を変えるのは本当に大変なことで、今資料を見る限りでは勉強会ではあるのですが意識を変えるというところまでいくのだろうかという点がちょっと見えてこないように思えます。その点を少し頭に入れた上でメインプログラムを考えれば、見えてくるものがあるのかなとは思いますので、そこはまた副理事長と話をしながら議案を作っていただけたらと思います。

板元　　：休憩動議

セコンド：鈴吉、重野

２１：１５までの休憩で可決。

協議事項２：啓発事業　共感の輪を広げる仲間づくり事業計画並びに予算（案）について

木野田　：第２回目となります。広報の担いのもと、啓発事業として背景・目的を含め修正しております。まだまだな部分もございますが、皆様のご意見をお願いいたします。詳細につきましては委員長より説明させて頂きます。

板元　　：前回の正副並びに臨時正副を経て修正をさせて頂いております。説明の通り背景・目的そして広報誌の内容を変更しております。お目通し頂きご意見・ご質問をお願い致します。

田上　　：委員長の考える啓発とは、どんなことですか？

板元　　：市民の人たちが、この町が好きだな、この町に生まれてよかったという想いを再認識して頂き、郷土愛を育みこの町の為に出来ることはないかを模索することを啓発できたらと思います。

田上　　：地域の魅力について感じ取って欲しいということだとした時にＪＣとしてどの様に展開しようと思っていますか？

板元　　：そのようなことを広報誌の内容で伝えようと考えております。

田上　　：私の認識だと理事長の考えは、霧島ＪＣの周知ではなく啓発だと思います。意識変革など事業をしている中で気づいてもらえてない。そこを色々な人たちに霧島ＪＣの活動運動に理解を示して頂くとともに自分たちも何かしないとね。と思って頂くことが啓発事業だと思う。中身を見たのですが、霧島Ｊｃはこんな取り組みをしていますが、必要なのではないでしょうか？

板元　　：活動報告の部分で理事長挨拶を入れて霧島ＪＣの広報もできればと思っております、

田上　　：広報誌に関しては、見て頂かないと意味がないので、目を引くものは大事なのですが、本当に伝えたいものについて委員長の中で答えを持ってないといけないと思います。

板元　　：伝えたいことは何なのか明確にしていきたいと思います。

東井上　：背景の中で特に若い世代と記載した意図を教えてください。

板元　　：前文の人口流出はこの地域でも大きな問題であるなかで、まちの魅力や可能性を感じて、若い世代に盛り上げていってほしいという想いを込めております。

東井上　：であれば、若い世代の人に見て頂けるようにしないといけないと思います。個人的には、外で学び帰ってくるということもありますので、表現を変更頂けましたらと思います。

板元　　：参考にさせて頂きます。

鈴吉　　：背景にあえて若い世代と記載があるなかで、手法のところで若者に注視している訳ではないので整理してください。また、作り方デザインもあるとは思うのですがいかに手に取って読んで頂けるように考えて欲しいと思います。

板元　　：最終的に大切な１番伝えたいことがブレないように考慮しつつ、多くの方に読んで頂けるよう再考させて頂きます。

井上　　：元々ＪＣ自体を発信したかったけど、公益の絡みから啓発となったとは思うのですが整理した方が良いと思います。自身の事業計画を見るとこの様な背景はまったくないので、もっとシンプルにして良いかと思います。霧島ＪＣを広めたいという想いと町のために意識を啓発、参画頂けるようにというのは難しいと思うのでどちらかに絞っても良いのかなと個人的には思います。

板元　　：事業計画のなかで、町に対する市民の意見を集約して市長対談や市役所の方々に見て頂くことで市役所の方々とタイアップしていく。そして、市民の方にも自分たちの声って届くという認識をもって頂きまちづくりへの参画を啓発出来ればと考えておりました。監事のご意見に関しましては、また持ち帰らせて頂けましたらと思っております。

前田(大)：啓発の意味をもう少し考えて。啓発をしっかりと定義づけてください。

板元　　：参考にさせて頂きます。

南郷　　：予算についてです。４番項の予算総額が予算書と違いますので確認してください。予算書のなかで事業費と協賛を色分けてしているとは思うのですが、このように分けた理由を教えてください。また、今回１０万を超える予算の部分がありますので、共　通認識事項で１０万を超える際は相見積をとってください。

板元　　：ありがとうございます。４番項については私の確認ミスです、計画書の方を修正します。色分けに１回目の発行を事業繰入金で対応、その他の部分を広告料収益として考えております。相見積はもう一社お願いしたく思います。

南郷　　：協賛金が集まらない場合は２回目、３回目の発行はないのでしょうか？

板元　　：現段階の予算計上ではそう見えてしまいます。再度修正させてください。

南郷　　：いつまでに、いくら集まらなければ、どの様にするのかまで記載して頂けましたらと思います。

前田(大)：ざっくり１０万とありますが、何口でいくらなのか？誰に依頼するのか？を計画に入れて精査して欲しいと思います。

板元　　：協賛委関しましては、１０万ということで計画の方にシニアの先輩を対象に一口１，０００円で考えておりますが、スケジュールの精査を含め作成して参ります。

藏元　　：共感の輪を広げることを一番に考え事業の構築をしてもらいたく思います。８００字で事業計画を書いておりますので、それに沿った形で進めて行けましたらと思います。

前田(大)：これで啓発事業　共感の輪を広げる仲間づくり事業計画並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項３：２０１９年度５月例会計画書並びに予算（案）について

木野田　：引き続きよろしくお願いします。中身につきましてはシニアクラブとの交流と考えております。詳細は委員長より説明致します。

板元　　：５月例会計画書になります。副理事長からもありましたように、シニアクラブとの合同例会で考えております。前回の正副では、メインプログラムにシニアの先輩方と拡大について話し合う機会を作ろうと考えておりましたが、例会後に行う設えとして計画立てをさせて頂きました。よろしくお願い致します。

鈴吉　　：前回の正副にて、背景にシニアクラブと限定的に記載がありますが、シニアクラブに加入していない先輩も含めるのでしょうか？

板元　　：シニアクラブに入っていない先輩とも考えないといけないです。

鈴吉　　：シニアクラブに入られていない方には連絡方法なども考えないといけないので、シニアクラブに入られていない方も呼んだ方が良いということではなく、表現を変更する等、統一でお願い致します。

前田（大）：そこに関しましては、正式な形でやっていきたいと思うのでシニアクラブでしてください。その後は、鈴吉副理事長からの意見もありましたが今後どうしていくのか考えていけば良いと思います。

重野　　：なぜ、連携を強めることが必要だと思いますか？

板元　　：シニアクラブとの連携がない現状かと思います。ハロウィンなどで協賛を貰いに行く際だけの繋がりなのかなと感じます。現状は良いのですが、今後先々を考え計画させて頂きました。

重野　　：板元委員長もブロック協議会との繋がりもありますので、他のＬＯＭの現状も確認して進めていくと良いかと思います。

板元　　：串木野ＪＣや川内ＪＣなどシニアとの連携が密にできていると思いますので他のＬＯＭ意見を参考にさせて頂きたいと思います。

東井上　：目的のところですが、シニアクラブとの連携を強めるという部分は手法かと思いますので、その後の部分を記載した方が良いと思います。

板元　　：文章の再考をさせて頂きます。

盛田　　：対内対象者にシニアクラブと記載されているのですが、シニアクラブは対内で間違いないでしょうか？

板元　　：全然知らない人ではなく今回の例会に関しては対内とさせて頂きました。

盛田　　：シニアクラブとの関係性の薄れている部分は、私も共感できますので良き事業になるかと思います。

前田（大）：正副での伝え忘れなのですが、５月が選出委員の投票となりますので案内文など変更があると思います。

板元　　：内容を盛り込んだうえで修正して参ります。

常盤　　：近年、シニアクラブと合同でということは、あまりなかったので良い機会となると思うのですが、１回実施しただけで強固な連携が出来るとは思いません。今後、継続的に行っていけるような仕組みを考えてください。シニアクラブの役員や歴代理事長だけでなく、折角の機会なのでてシニアクラブ全体の意見を頂き意見を集約して継続していけるようにしてほしいと思います。擦り合わせ等大変かと思いますが構築して頂けましたらと思います。

板元　　：今後の関係性を築いていくためにもアンケート等で意見を頂くようにしたいと思います。

前田（大）：先ほど、委員長からもありましたがメインではなく例会終了後に実施することを把握頂けましたらと思います。現状、例会と懇親会は別々の会場となっておりますので合わせてご理解ください。

東井上　：合同例会となっているのですが、別会場でシニアクラブも例会を行っているという認識でしょうか？単純にシニアを呼ぶということでしょうか？

藏元　　：合同例会なので、同じ空間で行うと考えております。私の理事長挨拶のあとはシニアクラブ会長の挨拶を入れる設えをします。そして、現役の活動報告をするという流れかと思います。自分の知る限りではないので、はじめての取り組みかと思います。

前田（大）：補足させてください。現状シニアクラブの方で定例的に例会をしているかというと開催されていないです。そこを変えていきたいと思いますし、今後形を変えてシニア懇談会という形になるのかなど踏まえて計画出来ればと思っております。

井上　　：１回目ですので、今後内容も詰めていかれるかと思うのですが、ただ意見交換する、リストを作るなどありますが、活発に意見を頂けるように考えていくためにグループトークを実施するにあたっての資料があればと思います。

板元　　：拡大リストを元に進めさせて頂きたいと考えております。

藏元　　：シニアの先輩方との交流は、新春懇談会ぐらいであります。青年会議所の魅力の一つに先輩方との交流できる部分かと思いますので、そこを強めていければと思います。

前田(大)：２０１９年度５月例会計画書並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

協議事項４：誰もが夢を描けるまちづくり事業計画書並びに予算（案）について

田上　　：１回目となります。詳細は委員長より説明させて頂きます。

盛田　　：事業概要の説明。その他お目通し頂きご意見頂けましたらと思います。

東井上　：事業タイトルが、年間フレームと違うのは理由がありましたでしょうか？

田上　　：私の確認不足でした。

盛田　　：誰もが夢を描けるまちづくり事業と修正させて頂きます。

板元　　：対内目的を見ると人材を発掘し育成するといよりは事業を通して、人材を導いていける～とした方が良いと思います。

盛田　　：参画意識を高めるという部分は違うとご指摘を頂く中で、確かに育成という部分は違うかと思いますので改めて目的を再考させて頂きます。

鈴吉　　：背景については、簡単すぎるかなと思います。もう少し深堀されて、なぜ誰もが夢を描ける社会が必要なのかという部分を所信や方針などを参考に考えて記載してください。

盛田　　：確かに薄いかと思いますので、背景についてはもう少し詳しく記載いたいと思います。

橋　　　：背景に関しては、鈴吉副理事長からもありましたが問題定義をしっかりと踏まえて記載頂けましたらと思います。対外目的に関して、背景との繋がりがあまり見えないので再考頂けましたらと思います。

盛田　　：改めて、精査のうえ串刺しになるよう修正致します。

南郷　　：予算についてですが、根拠となるデータがありませんので、見積もり等の添付をお願いします。また、広告料収益をどの様に集めるのか議案に記載と事業費と広告料収益との色分けをお願いします。あと、ハガキの配布先はどの様に考えているのでしょうか？

盛田　　：はがきに関しては、昨年のイメージで作成させて頂いております。

南郷　　：はがきに書いて募集をするということでしょうか？

盛田　　：はがきの必要性について、改めて考えさせてください。

南郷　　：ハガキがダメということではないのですが、配布先など費用対効果が見える資料の添付をお願いします。

常盤　　：背景は、先ほどもありましたが、どうしてまちづくりが必要で、どうすることが目的で、それを達成するために最善の手法はなにかを順序立てて考えて頂けましたらと思います。今、８月までのフローチャートが添付されておりますが、その中で委員会の動きについて明確になっていないのでゴールを見据えて逆算しながらやらなければいけないことを考えてください。そこが、しっかりとしてないので委員会には経験者も多数いらっしゃいますので、副理事長に助言をもらいながらみんなで考えて頂けましたらと思います。

盛田　　：ありがとうございます。

井上　　：流れ的にコンテストをしてグランプリのものを実際に事業として実施するとあるのですが、またコンテスト後に計画書があがってくるのですか？

田上　　：基本資料にもありますが、一つの事業として計画をあげさせて頂いておりますが、計画書を作る上で矛盾も出てくると思いますので、適切な対応をしたいと考えております。

井上　　：３月審議として４月にコンテストをして５月に決めるなかで、何がグランプリになるかわからないのにどの様なつくり方を考えておりますか？

田上　　：場所・時間を決めたうえで、予算については大枠で組んでおりますので、詳細は修正をと考えております。

東井上　：引継ぎ事項の参加促進対応３　２市１町に対して周知するとありますが資料はどこになりますか？

盛田　　：前年度の資料のなかで、修正ミスです。

東井上　：今後、変わっていくと思うのですが夏祭りでの広報とありますが、人数を集めるために使用できればいいのかなと思います。

盛田　　：書き方の修正をしたいと思います。

鈴吉　　：コンテストをするということですが、募集要項と申込書は別々で考えておりますか？

盛田　　：別で考えおります。

鈴吉　　：別であれば、予算を分けてください。あと別でも良いのですが、効果的に応募いただけるように考えて頂けましたらと思います。

盛田　　：ありがとうございます。

前田（大）：事業実施日は、市民会館前広場となっておりますが屋外ですか？

盛田　　：屋外です。

前田（大）：雨が降った際はどうされますか？まだ、事業のイメージが出来ていないので今後ですが予備日を設けるのか？それとの屋内で実施かまで考えたうえで審議となりますのでお願い致します。もう一点ですが、正副後の対応でＳＤＧｓの１１をゴールとありますが、これについては資料がまだできていないということでよろしいですか？

盛田　　：ＳＤＧｓを絡めてくださいという指摘で、記載させて頂きました。

前田（大）：はじめて取り組むので分からないこともあったと思いますが、これは工夫と効果で記載すればよいと思います。本会が締結したなかで各地会員会議所も模索しながらやっていくと思います。工夫と期待される効果でＳＤＧｓ。そして、ゴールは１１番項でこうなるという風に記載した方がよいと思います。その中で、工夫と期待される効果をもっと細分化して記載した方が良いと思います。

盛田　　：項目ごとに記載するようにします。

井上　　：若い世代１２名に対してどのように募集するのか？すでに決まっているのか？一般のコンテスト募集は見えたのですが、そこが見えないのでイメージを教えてください。

盛田　　：事業実施の協力者については、学校訪問のうえで依頼をしたいと考えております。募集方法はまだまだ工夫の余地があると思います。コンテスト募集と合わせて事業実施の市民も募りたいと思います。

井上　　：タイミングもあるので、しっかり考えていかないといけないと思います。コンテストもですが、若い世代の方々が集まらないと意味がないと思いますので効果的な集め方を模索してもらえましたらと思います。

盛田　　：考慮したうえで効果的な集め方を模索したいと思います。

常盤　　：若い世代とありますが、２０１５年度にＵＮＧで中学生を対象に事業をしましたが、今対象の年代かと思います。ＵＮＧに関しては、九州地区で表彰された事業であり良かったですが、なぜ断ち切れたのかを踏まえ単発にならずに自発的に継続する仕組みを大変だと思いますが考えて頂けましたらと思います。

木野田　：４月例会との関係は何かあるのですか？

盛田　　：例会に関しては、対内のまちづくりへの参画意識の向上を目的とするのですが、その中で、この地域に必要なことをオブザーバーとして考えていければと思っております。

木野田　：繋がりがあれば尚よいと思います。もう一点ですが、グランプリをとったものを事業実施と考えてよろしかったでしょうか？

盛田　　：はい。

木野田　：審査員に理事長もいるのですが、グランプリをとったものを事業として実施するにあたり方向性がずれたものを実施するのか？費用対効果の面をしっかり考えて計画を立ててもらえましたらと思います。

盛田　　：皆様の会費を使わせて頂く事業ですので、共感頂ける事業を行える様にしたいと思います。

藏元　　：８００文字に書いていることをしっかりと実施する事で、出来ると思います。ただ、事業を行うにあたっての情報収集が不足していると思います。また、情報を取りに行くにあたって定まっていない状況だと思うので副理事長に助言をもらって進めていかないと自己満足で終わる事業になってしまいます。今までの事業と一味違う形となりますので、いつまでに何をしないといけないのかをしっかりと考えて進めてください。委員会がしなければいけないわけではないので、他の委員会と連携しながら情報収集を行って頂けましたらと思います。

盛田　　：今いちど理事長所信に添った形で実施できるように情報収集をしていければと思います。

藏元　　：もう一点過去の計画書もですが、他のＬＯＭや日本・ブロックなどの事業を参考にしても良いかとおもいます。ネット等でも情報は出てきますので調べたうえで電話をして担当の方に募集要項やテーマなど詳しく聞くなどしてみてはいかかでしょうか？

盛田　　：他ＬＯＭから貴重な話が聞けると思いますので参考にさせて頂きます。

前田(大)：以上で、誰もが夢を描けるまちづくり事業計画書並びに予算（案）を閉じさせて頂きます。

監事講評：井上正樹くん

井上　　：皆様お疲れ様でした。事業の計画書もありましたが、仮会員の議案が４件あり、例年になく拡大に結果が出ていることに関しまして板元委員長を中心とした皆様には感謝申し上げます。この良い流れを自分も含め継続していけましたらと思います。本年は、シニアとの交流など新しい取り組みが多い中で何をゴールとするのかをしっかりと見据えて計画を作成して欲しいと思います。事業で考えた時に５Ｗ１Ｈがブレていると感じました。そのうえで最終的に何を伝えたいのかを整理して頂き最高の形で審議をとって後はやるだけといった状態に持って行って頂きたいと思います。仕事、ＪＣと色々とある時期かと思いますがひとつずつ取り組んでいき皆で率先垂範していければと思います。

監事講評：常盤大和くん

常盤　　： お疲れ様です。本年は、臨時理事会を通常の形で執り行い時間の短い中で、臨時の正副も開催頂きしっかりと理事会に向けた議案があがってきていたのかなと思います副理事長をはじめとする理事、そして執行部の皆様には感謝申し上げます。議案の中身につきましては、井上監事からもありましたが仮会員が４名入ることになり機運が高まるという事で素晴らしいことだと思います。ただ、この後のフォローアップが大切かと思います。ここをしっかりしないとＪｃおもしろくない、行かなくてもいいなど、言い方は悪いですが戦力にならないという双方よろしくないという結果になってしまいますので、フォローアップや声掛けを全会員で協力して行う事で一体感にも繋がると思いますので、議案にも仮会員に対する設え等を盛り込んで頂けましたらと思います。他の議案に関しましては３月例会が審議をとりました。例年になく２カ月前に審議となっておりますので、実施までの間に出来ることも多々ありますので、一回目の例会となり今年度のベースになりますので頑張って頂ければと思います。事業に関しては生みの苦しみではないですがまだまだやらなければならないことが多いと思います。委員長だけでなく副理事長や経験者、顧問に協力を求めながら進めて頂けましたらと思います。１月も終わり１２分の１が終わります。来月には６分の１が終わっています。どんどん進んで参りますので体調管理等気を付けて一日一日を大切に過ごして頂けましたらと思います。

次回開催

平成３１年　２月１２日　　第２回正副理事長会議

平成３１年　２月２７日　　第２回理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鈴吉　　美絵　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　木野田　幸平　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　板元　幸仁　　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞